

JA 全農 ET センターニュース平成 19 年 8 月号

「全農 ET センター笠間分場の業務開始にあたって」

本年 7 月 19 日に茨城県笠間市にて、ET センター笠間分場の竣工式が執り行われ、いよいよ採卵業務がスタートしました。今月号は笠間分場の小西場長に新たな決意表明を書いてもらいました。

平成 11 年 1 月に北海道上士幌町（十勝管内）に全農 ET センターを設立し、飼中研での研究開発により蓄積した技術、および ET センター移転後の研究成果も加えた技術力をエンジンに ET センターが一丸となって系統内の ET 事業の普及・拡大に取り組んできた。黒毛和種を中心とした受精卵の供給個数は、ET 事業を開始した 11 年度 1,784 個、12 年度 3,649 個と増加し、BSE 発生後も 13 年度 4,750 個、14 年度 5,480 個、15 年度 6,250 個と需要は急増した。それらの大きな理由として、受精卵を購入していたユーザーから ET センターの凍結受精卵の受胎成績が良好かつ安定していることが広く認知され始め、その技術力が高く評価されてきたこと、和牛供卵牛の頭数および評価の高い血統をそろえていること、また、近年は和牛相場の高値および生乳の生産調整等の背景もあり、酪農家が ET による和牛生産に積極的に取り組み始めたこと等が考えられる。その結果、16 年度 7,252 個、17 年度 8,442 個、18 年度 10,545 個と供給個数はさらに拡大した。ここ数年は受精卵の製造が需要に追いつかず（供給個数の数倍の受注）、ET センターの牛舎改築も含めて和牛供卵牛増頭に最大限の努力を注いできた。18 年度末には 450 頭に達し、19 年度には 500 頭にする計画で進めているところである。しかしながら、上士幌町の ET センターでは年間約 1,200 頭の ET 妊娠牛の製造も行っており、常時約 1,700 頭（導入・出荷の関係上一時的には ±100 頭増減する）の飼養頭数となり、施設的に限界に達しつつある。そのような状況下において、生産現場のニーズに答えるべく和牛受精卵のさらなる生産拡大を検討していたところ、茨城県笠間市（旧岩間町）の種豚場跡地への ET センター分場計画が具体化した。18 年 7 月の理事会決定を受けて、同年 10 月起工式、19 年 3 月には管理事務所・採卵室と第 1 牛舎（2 期工事で第 2 牛舎建設予定）が完成し、19 年度から業務を開始するに至った。北海道上士幌町に移転して ET 事業を開始して約 8 年半が経過した。この間徐々にではあるが、全国に ET 事業を普及・拡大することに貢献できたのではないかと考えている。しかしながら、受精卵製造個数で 10,000 個以上を超えて 3 年目、供給個数では昨年度に 10,000 個を超えたものの、全国を対象にした ET 事業を考えた場合はまだ「点」でしかない。岩間分場立ち上げの目的はまさにそこにあるものと考えている。需要に対応しきれない受精卵の製造個数を増やすことはもちろん、全国本部 ET 事業を「点」から「線」に、また県本部との事業提携等を含めると線から「面」に広がる第 1 歩になるものと思う。製造した凍結卵は上士幌の ET センター本場に送り、少しでも多くの需要に応えられるよう凍結卵リストに載せて全国供給する。一方、凍結できない品質の新鮮受精卵（B ランク）については県内や関東の近隣で活用していただきながら、関東エリアの中での生産基盤にも貢献できるよう努力したいと考えている。

全国本部と県本部が連携をさらに強めることにより、将来的には外的・内的等さまざまな畜産情勢の変化にもゆるがない強固な ET 事業が構築されて系統の生産基盤に貢献できることを希望しながら、ここ笠間分場がその一助になれるようにしたいと考えております。